

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	0272700782		
法人名	社会福祉法人ファミリー		
事業所名	ハピネスながわ		
所在地 (電話番号)	〒039-0502 青森県三戸郡南部町下名久井字剣吉前川原1-1 (電話) 0178-60-5252		
評価機関名	社団法人青森県老人福祉協会		
所在地	〒030-0822 青森県青森市中央3丁目20-30 県民福祉プラザ3階		
訪問調査日	平成21年10月20日	評価確定日	平成21年12月22日

【情報提供票より】(平成 21年 7月 22日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 13年 4月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤	7人, 非常勤 2人, 常勤換算 7人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り		
	1 階建ての 階 ~ 1 階部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	20,000 円	その他の経費(月額)	6,000 円
敷金	有(円) (無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) (無)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
または1日当たり 900 円			

(4) 利用者の概要(7月 22日現在)

利用者人数	9 名	男性	1 名	女性	8 名	
要介護1		名	要介護2	2	名	
要介護3	3	名	要介護4	3	名	
要介護5	1	名	要支援2		名	
年齢	平均	86 歳	最低	81 歳	最高	90 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	川守田外科胃腸科医院、国民健康保険名川病院、みかわ神経科内科医院、中村歯科医院
---------	---

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

<p>静かな田園地帯の一角に、他の福祉施設と隣接している。併設の地域密着型施設とは廊下でつながっていることを活かし、合同行事(花見・秋祭り等)、地域での行事の参加、外出、買い物等での交流が図られている。また、理念に基づき利用者、職員の生き活きとした「笑顔」が見受けられ、馴染みの関係が保たれている。</p>

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>「権利擁護に関する制度の理解と活用」について、研修への参加、伝達研修、勉強会を行う等、全職員での理解を深めるように努力されている。また「重度化や終末期に向けた方針の共有」については、事業所の(重度化対応における指針)(看取りに関する指針)を作成され、早期から本人や家族の意向を確認し、状況の変化がある度に検討する体制が整えられている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>管理者、職員は評価の意義、目的を理解し、全職員で取り組んでおり、評価の結果についても全職員へ伝達され、改善点等を話し合い、実践につなげるように取り組んでいる。また、ご家族等へも分かるように説明されている。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>会議は地域密着型施設と合同で定期的(2ヶ月に1回)に開催されており、利用者の状況報告や行事案内及び協力依頼、事故、苦情に対する意見を反映しサービスの向上に活かしている。また、会議の中で職員に「記録係り」という役割を持たせ、より身近なものに感じさせるよう努めている。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部10, 11)</p> <p>「ながわメール」の発信や面会時の状況報告、また毎月のグループホーム便りを作成し、日々の暮らしの様子や金銭管理の報告をしており、運営推進会議の会議録に事故、苦情報告を開示し、申し立てやすい環境が作られている。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地域行事への参加や利用者に馴染みの深い郷土芸能の訪問依頼、地元商店街への買い物等を行い、地域の人々と交流することに努められている。日常的に行われている散歩でも、近隣の人たちとも馴染みの関係ができてい</p>

2. 評価結果(詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスの意義、役割を理解し理念を作り上げている。また、理念に沿って、地域で生活しているという意識を持ち続けて頂けるようサービスの提供に努めている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念はホーム内に掲示し、ご家族や外部の方々にも理解していただけるようにしており、職員においては、日常的に確認し、サービスの提供を行っている。また、申し送りや会議の際に話し合いが行われ、理念の共有、実践が図られている。		
2. 地域との支えあい					
3	4	隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	積極的な地域行事への参加(祭り、さくらんぼ狩り、敬老会等)を行い、利用者に馴染みの深い郷土芸能の訪問依頼や地元商店街への買い物等を行い、近隣住民の方々とも馴染みの関係を作り上げている。また、中学生の体験学習の場の提供をしたり、隣接する知的障害者施設の方々との交流も図られている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	5	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>管理者は評価の意義や目的を全職員に伝え、理解を得、また、全員で自己評価を行っている。結果はミーティングで報告され、改善点については全職員で話し合い、実践につなげるように取り組まれており、評価の結果は誰でも見れるように掲示されている。</p>		
5	6	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>併設の地域密着型施設合同で2ヶ月に1回と定期的開催されている。その内容は会議録に記録され、職員会議等で全職員に周知報告されている。また、会議へ職員を記録係として参加させることで、会議をより身近なものに感じさせるよう努めている。会議記録の掲示もされている。</p>		
6	7	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>市町村主催の研修へ積極的に参加することで、情報交換を行っている。また、市町村担当者に問い合わせや相談等の機会を作り、連携を図っている。</p>		
7	8	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>管理者は権利擁護の研修に参加し、伝達研修を行い、全職員に研修や勉強会の機会を作り、更に理解を深めるように努めている。また、正面玄関ロビーにパンフレット、冊子を置き閲覧できるように工夫されている。</p>		
8	9	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>併設施設と共同で、身体拘束、虐待防止委員会を設置し毎月の会議にて検討確認されている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
9	10	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約の際には、本人、家族の不安や疑問について十分な時間をかけて納得を得られるよう解りやすく説明されている。また、入居して起り得るリスクについても説明し理解を頂いている。</p>		
10	12	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>面会時に状況報告を行っている。体調不良時には電話連絡を随時行っている。また、ながわメールの発信に加え、毎月グループホーム便りを作成し、日々の様子や金銭管理の報告をしている。</p>		
11	13	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>面会時、家族より意見や不満等を常に聞くように努めている。また、苦情処理委員会等も設けており、申し立てをしやすい環境が作られている。</p>		
12	16	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>異動時には、利用者への説明、家族への連絡と「お別れ会」を行い理解をして頂いている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
13	17	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ホーム内外の研修に参加し、教育計画に沿った指導及び報告を行い実践に活かしている。		
14	18	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	八戸地区グループホーム協会に加盟し、随時集会や研修会への参加、また南部町グループホームネットワーク会議を2ヶ月に1回開催しており同業者との交流する機会を持ち、情報交換が行われている。		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	23	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人や家族に安心し、納得を得られるようにホームの見学や必要時には体験利用も実施されている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	24	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日々の生活の中で、料理、野菜作り、花の育て方、昔の流行歌を教えてもらう等、なにげない日常の会話を楽しむことで、本人の不安、喜び、楽しみ等を知るとともに職員自身が嬉しいと感じ、癒されたりと、利用者から学んだり、共に支えあう関係を築きあげている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	30	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	統一した手順でアセスメントを実施し得られた情報と担当職員の関わりから、個別性の目標が設定されており、一人ひとりの具体的な介護計画がたてられている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	33	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人、家族の希望を聞き、全職員で話し合い、個別の介護計画が作成されている。利用者の心身の状況変化が見られていた際には随時対応について相談する機会を設け、看護師、管理栄養士の意見も取り入れている。		
19	34	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は1ヶ月毎にモニタリングされている。また、必要時にはその都度変更されている。家族とは面会時等を利用して話し合わせ、柔軟に対応されている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
20	36	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	併設の地域密着型施設の看護師、管理栄養士との連携体制を活用し、指導を受けている。本人、家族の希望を聞き、通院、外出等臨機応変に対応している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
21	40	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>週1回、囑託医の回診があり、随時相談されている。また利用者の中には希望するかかりつけ医があり、臨機応変に対応されている。</p>		
22	44	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>「重度化対応における指針」「看取りに関する指針」が作成されており、職員への周知も図られている。また、実際にあった事例を通して更に理解が深められ、早い段階での本人や家族の意向の確認、状況変化に合わせて話し合いを繰り返し行っていくように全職員で方針を共有されている。</p>		
<p>・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>					
23	47	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>利用者へのプライバシーを損ねる対応と言動がないよう、日々のミーティングを通し全職員が共有している。</p>		
24	49	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>一人ひとりのその日の気持ちや体調等に合わせた生活を過ごせるように個別性のある支援がなされている。また、利用者の状況に合わせた外出計画等も作成し、できるだけ外に出る機会を増やすよう支援されている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25	51	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>利用者と職員と一緒に調理や盛り付けを行い、同じテーブルで献立の説明をするなど、和やかな雰囲気の中で食事を楽しんでいる。また、畑で収穫した野菜を食材として使用し、季節感のある話題の提供にも努めている。</p>		
26	54	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	<p>入浴回数は基本的に週2回の実施であるが、本人の希望、体調等を考慮しながら入浴して頂いている。身体レベル低下の方は、併設施設の機械浴を利用し安全な入浴ができるよう支援している。</p>		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	56	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	<p>利用者の経験を活かした作業等を提供し、生活に自信を持っていただけるよう支援している。また月1回のエアロビクス体操として音楽に合わせた運動も行っている。</p>		
28	58	<p>日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	<p>ドライブや個別の希望に合わせて自宅訪問等、随時行われている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4)安心と安全を支える支援					
29	62	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	併設施設との共同委員会が設置されており月1回の会議が行われている。身体拘束をしないケアへの取り組みは全職員へ周知徹底され実践している。		
30	63	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中、玄関は施錠されていない。ドアの開閉は音で確認できるよう工夫されている。また、利用者の所在確認を徹底しており、外出しそうな様子の際は職員が付き添い、散歩やドライブへ出かけたりしている。		
31	68	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアルを作成し年2回、消防署員立会いの避難訓練が実施されている。また、地域の防災協力隊も設置され、協力をしていただき、実施している。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
32	74	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は職員が作成しているが、併設施設の管理栄養士の助言、指導を得ている。個別の摂取量や嚥下、咀嚼状態、体調等確認し情報の共有が図られている。		
33	75	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	併設施設との共同委員会が設置されており月1回の会議が行われている。マニュアルも整備され見直等も行われている。また、職員の研修も行い感染の予防、対策に努めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(1)居心地のよい環境づくり					
34	78	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有であるホールの壁面には季節を感じさせる装飾や直近の写真等が飾ってある。また、室温、明るさ等適度に調整されている。ホールには小上がりの座敷が設置され居心地良く過ごせる工夫がされている。		
35	80	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族と相談し、使い慣れた家具、道具等自由に持ってきてもらえるように働きかけ、本人が安心して過ごせる空間づくりをしている。		

 は、重点項目。